

ニュースレター

NO. 68

発行 / NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
事務局 / 〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1
稲城市地域振興プラザ 1F
TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971
E-mail : info@i-inagi-support.org
http : //www.i-inagi-support.org/

市民活動の可能性をさぐる

オンラインで交流フェスタ 2021 開催



稲城を拠点に活動する市民団体の皆さんが参加して交流を深める「市民活動交流フェスタ 2021」を、去る 11 月 27 日に開催し 27 名の方が参加しました。

市民活動サポートセンターいなぎの主催事業の一つである「市民活動交流フェスタ」は、例年なら会場内に模擬店を設け、参加者同士が軽食を食べながら楽しく交流しますが、今年度は感染症対策を想定してオンラインで開催することとし、地域振興プラザと参加者の自宅をオンライン会議システム Zoom でつないで行いました。

当センターとしてはオンラインによるイベント開催は初の試みであり、どのようにしたら参加者が有意義な時間を過ごすことができるかを話し合った結果、講師を招いてお話いただいた後、参加者同士で交流を深めてもらおうということになりました。

講師には、コロナ禍でもオンラインでの活動を積極的に進めている浜田有里恵さん（当センター理事）に依頼することにしました。浜田さんは、子育てをしながら稲城市をはじめ地域でネットワークを広げ、地域団体の「ママごち」、「いなぎコミュニティビジネスクラブ（ICBC）」等の運営に関わっている方です。

◇
第 1 部の講演会は、浜田さんから「オンラインで市民活動を推進するための秘訣」というタイトルで、コロナ禍で活動自粛を余儀なくされたなか ICBC で知恵を出し合い、どのように取り組んだらよいのか工夫した結果、オンラインで講座やワークショップを実施し、市民活動を多様化させることができた事例を、ICBC の紹介とともにお話していただきました。

第 2 部の交流会では参加者はグループに分かれ、2 つの交流テーマ（「コロナ禍でどのような活動をしてきたか」、「コロナ禍で変わったことやチャレンジしたことなど」）のどちらかを選んで、Zoom を介して楽しく自由に話し合い、そのまとめをグループごとに発表しました。

◇
慣れないオンラインによるイベントでしたが、今後の活動の大きなヒントを得ることができ、さらにはオンラインでも参加者同士が親密に交流できることや、市民活動団体の発展や活動の活性化につなげることができたことは大きな成果でした。

稲城の魅力発信事業 ～まちが博物館～



市民活動サポートセンターいなぎでは、稲城の魅力を再発見し、新たな観光事業の開発などに寄与していく「稲城の魅力発信事業」を、平成25年度から実施しています。市民の皆さんと稲城のまちを実際に歩きながら、その魅力をいかに発信するか考えるとともに、まちの課題などを洗い出し、新たなまちづくりのための政策提言にもつなげていくことを目的とする事業です。

開催日：令和3年11月23日（火・祝）

コース：南多摩駅～大丸用水遊歩道～大丸地区会館～但馬稻荷神社の祠～多摩稲城マンション～川崎街道から見る水田跡地～大麻止乃豆乃天神社～清水川～ヤッターワン～南多摩駅

稲城市による新たな市民活動の補助制度がスタート

●ポイント制度から団体補助へ●

稲城市が平成25年度から進めてきた市民活動ポイント制度は、①新規参加者が減少してきていること、②対象者及び事業が固定化、硬直化してきており、制度が新たなボランティアの創設に結びついていないことなどの理由から、令和2年度をもって終了することになりました。

それに代わる制度として、今年度から「稲城市社会貢献活動振興補助金制度」をスタートさせました。この制度は、社会貢献に寄与する団体の事業や活動を補助することにより、市民の団体活動を活性化していくものです。今年度は8団体からの申請があり、審査の結果、7団体に合計314,000円の助成が行われました。

●市民活動支援基金の意義を改めて考える●

市民活動サポートセンターいなぎでは、平成19年度から「市民活動支援基金」を創設し、市民活動団体への助成を行ってきました。この基金は、市民や団体、企業などからの寄付や委託金、当センターが独自に確保した財源を原資としており、稲城市内で社会貢献活動を行っている団体の活動費の一部を助成することによって、稲

城のまちづくりに寄与することを目的としていました。

当センターの独自財源の内訳は、主催コンサートのチケット売上金や個人寄付、企業からの寄付などを集め、基金として捻出したものであり、市民の皆さんと当センター理事たちの「協働のまちづくり」に対する熱い思いによって支えられてきた制度でした。

これから、稲城市が創設した「社会貢献活動振興補助金制度」は、当センターの基金を参考に構築しており、社会貢献活動を行う市民活動団体の活性化を促し、協働のまちづくりに寄与していく点において同一の目的であることから、今後は市による新たな制度に託す形で、当センターの「市民活動支援基金」を終了することとしました。これまでの支給実績は、以下のとおりです。

●市民活動支援基金の支給実績●

(平成19年度～令和2年度)

1. 支給団体計 56 団体
2. 支給総額 2,261,341 円
3. 支給額の原資内訳(子どもの森文化基金 1,447,893 円、サポートセンター運営基金 773,448 円、東京稲城ロータリークラブ 40,000 円)

大丸地区の歴史をたどるまち歩き



大丸用水を中心に、大丸地区の歴史をしのばせる景色の中で、稲城の魅力を再発見しました

当日は、好天に恵まれて約 30 名もの参加をいただき、まちがそのまま博物館になっているような大丸用水を中心に、地域の歴史を感じさせる大丸地区の名所を歩きながら、稲城の新たな魅力を随所に発見しました。

朝 9 時に南多摩駅に集合した参加者は、大丸用水の遊歩道に向かって歩きました。駅近くには多摩川から取水した用水を分水している分量橋があり、周辺は分量橋公園として整備されています。ここから大丸用水に沿って整備された遊歩道は、ゆったりとした水の流れを見ながら歩くことができ、せせらぎの音に癒されながら水路沿いに広がる水田や緑豊かな景色を楽しみました。

担当理事から大丸用水についての説明を聞いて用水の役割の重要さを学び、大丸地区会館で休憩した後、但馬稻荷神社をお詣りし、さらに川崎街道を渡って大麻止乃豆乃天神社へ向かいました。大麻止乃豆乃天神社は急坂の階段を登り、たどり着いた森のなかにひっそりと鎮座していました。

神社周辺の住宅街では用水が路傍を流れる風景を楽しみ、南多摩駅に戻って昼前に解散となりました。

短い時間でしたが、「まちが博物館」というタイトルにふさわしい見どころ満載のまち歩きに、参加された皆さんは満足されていました。

NPO 講座
開催案内

協働の新たなステージ

～多様な関係を理解し合う、アフターコロナの“協働”のあり方～

「協働」という言葉が使われだしてから久しくなりますが、果たして今、この「協働」という言葉と内容をどれだけの方が理解しているのでしょうか。コロナ禍とアフターコロナにおける協働とはどのようなものになるのでしょうか。

今、ここでもう一度「協働とは何か」という原点に立ち帰り、講演とワークショップにより、新たな協働のあり方を模索します。

講師に長浜洋二氏（モジョコンサルティング合同会社代表）を迎え、行政や NPO・NGO、市民活動団体など、地域に対する支援の経験を生かした「協働の新たなステージ」について、お話いただきます。

■長浜洋二氏プロフィール

鳥取県×日本財団地方創生プロジェクト アドバイザー
町田市地域活動サポートオフィス 事業統括ディレクター
国際協力 NGO センター 理事
法政大学／神奈川大学 非常勤講師
1969 年山口県生まれ。米国ピッツバーグ大学公共政策大学院卒。NTT、マツダ、富士通で約 15 年にわたりマーケティング業務に従事。2018 年にモジョコンサルティング合同会

日 時：3 月 5 日（土） 午後 2 時～3 時 30 分
費 用：500 円（市民活動サポートセンターいなぎ会員は無料）
定 員：30 名
申込み：2 月 25 日（金）までに電話・FAX または e メールで、市民活動サポートセンターいなぎまで（お問い合わせも当センターへ）
TEL 378-2112 FAX 378-6971
MAIL info@i-inagi-support.org



社を設立し、社会課題の解決と新しい価値の創造に取り組む人や組織、地域に対して、事業開発（事業計画／戦略の策定と実行）と組織開発（コーチング／ファシリテーション）のコンサルティング支援、及び地域における多様な主体の協働推進（エコシステムづくり）を行っている。著書に「NPO のためのマーケティング講座」がある。

市民活動支援講座が開かれました

市民活動サポートセンターいなぎの「市民活動支援講座」制度を活用して、NPO ふれあい広場ポーポーの木が「おからを使った料理」をテーマに講習会を開催しました。

講習会は、地域の方々にも広く参加を呼び掛けて行われました。感染症対策として、定員を抑えた参加者を2部に分けて入替制とし、講師が、おからの栄養価を講義したあと、ゼリーフライや塩パンケーキ、おからそばろみその3品を調理、参加者に試食品を持ち帰ってもらいました。

参加者からは、「おからのことは知っていても普段使わない食材だったので、改めて料理に取り入れてみようと思った」「血糖値や動脈硬化など健康に対するおからの力を見直した」などの感想が聞かれました。

開催日時：10月30日 9:15～12:15

会場：城山文化センター 実習室

参加人数：17名

※市民活動サポートセンターいなぎは、講師謝礼を全額補助しました。

市民活動支援講座とは？

これから講演会や講座を開催しようと考えている市民活動団体を、市民活動サポートセンターいなぎがお手伝い（支援）する制度です。

- 講座を開きたいけれどやり方がわからない。
- 講演会を開く場所がない。
- 著名な講師を呼んでみたい。

このようなことでお困りの団体は、市民活動サポートセンターいなぎにご相談ください。

フォスターシティ市と稲城市が姉妹都市に！



左から、高橋市長、フォスターシティ市のオカモト会長、ゲハニ市長、交流協会の安東会長

稲城市とアメリカ合衆国カリフォルニア州サンマテオ郡フォスターシティ市との姉妹都市提携締結式が2021年7月27日、稲城市地域振興プラザで行われました。

当日は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、両市の会場をオンラインでつないだ形で開催され、両市の市長や関係者、稲城市姉妹友好都市交流協会からは会長、副会長、海外交流委員長が出席しました。

締結式では、青少年の交流・文化の発展・観光など幅広い分野における交流を通じ、相互の持続可能な発展目標の達成と、相互の理解・連携を深めることを確認し、稲城市の高橋勝浩市長、フォスターシティ市のサンジェイ・ゲハニ市長、稲城市姉妹友好都市交流協会の安東道正会長、フォスターシティ姉妹都市協会スティーヴ・オカモト会長が、協定書に署名を行うとともに、画面越しに友好の握手を交わしました。



稲城市と同じく水と緑に包まれたフォスターシティ市



2021年は両市とも市制施行50周年の節目の年にあたり、今回の式典は姉妹都市協定の締結だけでなく、市の50周年を互いに祝い合う記念イベントともなり、両市の姉妹都市交流は幸先の良いスタートとなりました。